

三 (三入) 賢者が入ってきたとき
鈴 (鈴張) が鳴いているのを聞いた

彼らは高 (高陽) 熱で南 (南原) に向かった
まるで深い川 (深川) からきた狩 (狩留家) 人のように

死にかけているアキレスのような気分だ
彼はあのカメ (亀山・真亀) についていくことができない

桐 (桐原) の木が静止している林 (大林) で
人生は台無しになっていく (= down the tube → 筒 → 筒瀬)

落 (落合) ち込んだ時、君は見るべきさ
君の可能な部分 (可部) を

人生は複雑 (intricate → 入り組む → 綾 → 綾が谷) で 注1
君は勝 (勝木) つことを望んでいる (longing → long → 長い → 長井) 注2
今 (今井田)、行動するんだ

落ち込んだ時、君は見るべきだ
君の可能な部分を

この世界はとても荒 (荒下) 々しく
君は勝つことを望んでいる
今、行動するんだ

白 (白木) い城が口 (口田) の中で燃えている
奴らはまた (ふたたび 注3) 朝 (安佐町・あさひが丘) に戻ってくるのか?

倉 (倉掛) 庫は不満で溢れている
楠 (くすのき台) が静止している場所で

奴らはまた朝に戻ってくるのか? (朝に帰宅 → 安佐北区) 注4

歌詞解説

<元ネタについて>

上記している訳詞に書いていますが、歌詞の元ネタは可部近辺の地名&安佐北区の地名です。タイトルの Possible Part は可部を直訳したものとして、前々から考えてはいたのよ。複数形にした理由は後述。

さすがに全部の地名を使って歌詞を書くのは無理（とてつもない文章量になる）なので、〇〇町で出たらそれですべてを含んでな感じにしました。例えば、安佐町飯室とかね。飯室 → 室 → room で使えば良かったんだけど、どうして使わなかったんだろう。ふと思った（注5）。

とは言っても、可部町のマニアックな地名は多少使っています。可部町に住んでいるから多少はね。

で、特に解説がいたるところを。

注1：綾ヶ谷

綾を英訳したらどうなるか調べてみたら、そのまま Aya って出てきました。そこでこの言葉の意味を調べてみたところ、模様の他に「人生の綾」のような使われ方がありました。意味は「人生や世の中の入り組んだ仕組み」です。ここからヒントを得て、「人生は複雑に入り組んだもの (life is intricate)」の歌詞を作成しました。手が込んだ分だけあって、個人的にはお気に入りの箇所。

注2：longing

上述しているように longing の元ネタは「長井」となっておりますが、実はこれは後付けです。白状いたします。後付けです。個人的にこの単語が好きでして、hoping, wishing, wanting ではなくて「希望する」の英訳でこの言葉を選びました。で、後になって「これ、長いとひっかけできるな」と思い、ネタに「長井」を盛り込みました。で、長井だけじゃあれなので、荒下もネタに入れようと思って、その後に wild を使用しました。で、何故に住所とかではなく地域名である「長井」「荒下」を意識したのかと言いますと、この地域で執り行われている町おこし関係のイベント絡みで作ったからなのよ、この曲。

注3：ふたたび

今回の曲作成の元となった地域おこしなあれこれの中に「ふたたびプロジェクト」ってのがあるのよ。なので、お遊びとして入れてみました。これは一番最後に思いついたネタです（最初は無かったのよ、againは）。

注4：安佐北区 → 朝 帰宅

こちらの地方では一度は耳にする親父ギャグ。それをこんな風に仕上げてみました☆（ｷｯﾋﾟ

注5：room

何故に room を使わなかったかですが、後になって思い出しました。理由ですけど、一度使用して詩を書いたのですが、個人的にあまりにも雑な文章だったので破棄しちゃったんですよ。で、他の詩を書いたときにこのことをうっかり見落としていました。気が付いたのが曲完成させた後なのよ。つか、この解説を書いている時だわ。

<詩について>

地名から単語を取り出して作ってみようって案は、タイトルを決めた時に思いつきました。そこで、地名を調べて、全部を使用するのは文章の量として無理があったので、〇〇町□□みたいところは、〇〇町まででOKとしました。但し、可部近辺は少し詳細に扱っています。

〇〇東とか〇〇南とかは〇〇に含まれます（例：可部東・可部南は可部で代用しています）。そこまでやるとキリがないと思われたので。

地名から選んだ単語を利用したけど、歌詞はサビ部分を除けば割と暗めに書いています。元々僕は明るい歌詞を書くことが少ないのよ（明るいのは宗教絡みの歌詞ぐらいじゃね？）。なので、ここでは無理せずにいつも通りに暗めにしました。一番大変だったのは、綾が谷（あやがだに）だったかな。

歌詞を英語にした理由は、日本語の歌詞が書けないからです。日本語って自分を意味する単語だけでも「僕」・「私」・「俺」があって、方言も入れたらもう少し増えて、いったいどれで書いたらよいか分からないのよ。文章だとそこまで苦労はしないんですけどね。

初めてオリジナルを作成したのが彼は25年ぐらい前なのですが、その時に詩を書こうとして、どの言葉を使ったらよいか分からなくなって、しばらく固まったのちに「英語で書こう」と決めました。一応、大学の入学試験で英語があった（国立大学を受験したので、共通一次で英語が必須でした）ので、ぼちぼちの知識は残っていたのと、その時の参考書などを持っていたので、再度英語の勉強を致しました。尚、結果として、大学時代に英検2級までは行けました。準1は無理だったわね。

Possible Parts と、複数形にしたのは「可能な部分」は一つだけでなく、複数あると思ったから。「可能性」を意味する感じで作成したのよ。物事が上手くいかないときには、「不可能」を見続けるのではなくて「可能性」を見つめるべきだよってな歌詞でもあるのよ、これ。一応、僕が書いている詩なので、僕の思想とかあれこれとかも多少入っております。

詩の一部が皮肉的だったり、悲観的だったりするのは僕の性格がそうだから。

自分以外の人を前提において曲を書いたのは初めてかも。そして、最後かも。

<作曲について>

正直、この曲のメインリフは何かの曲の丸写しだと思う。しかし、その曲が思い出せない。最初はレッド・ツェッペリンの Heart Breaker だと思っていたのですが、似ているけど丸写しじゃないのよね。似ているんじゃなくて、丸写しの曲があると思うんだけど。

リフを思いついたのは、「可部の曲を作ろう」ってなアイデアを町おこしの会議で聞いた時です。酔っぱらった勢いで、そこにあったギターを手に取って即興で作り（もしくは、パクり）ました。で、それを次の日も覚えていたので、忘れないようにして、展開とかを考えたりしておりました。

基本的にEmの曲です。歌の途中でAmに行きたかったのをグッと堪えてみ

ました。

前回リリースした曲(歌は無し)で、ギターソロが無いと言われましたので(あえて入れなかったのよ)、今回はたくさん入れてみました。2回目のサビで流れるのを除けば、全部即興。フレットの位置動かないし。適当にも程があるソロなのよねえ。ワウをかませばどうにかなる(なっているとは言っていない)。

演奏部分が完成した時点では、結構お気に入りでした。

ボーカルが入ったら、毎度のこととはいえ、口に出せないほどの劣化ぶりが

ああ、そうだった。音痴だから歌詞入りの曲を作らないと数年前に決めていたんだっけ。

ギターの音が歪み過ぎるのは良く言われるので、言われる前に言っておこう。ええ、歪んでいます。適当ってのが分かりません。

元はシンプルな曲にする予定だったのに、多重録音をやりまくって示しがつかなくなったという、毎度の展開。音の足し算はできるけど、引き算ができません。